

君の人生の夢？ 複雑で、とりつくしまもないように見える自然現象の数々に対して、それらを統一的に論理的に、そして何よりも美しく説明するような理論を発見すること。かつてガリレオやニュートンが成し遂げたように、アインシュタインやディラックが成し遂げたように。才能をもって生まれたものだけが理解できる美しさ、その美しさが現実の自然を理解しようという試みの中で、たびたび発見されてきたという事実。すごい理論の第一発見者になること、有名になること、お金と名誉と権力を手にいれること、そんな事はどうでもいいことだ。あの説明しようもない美しさ、それが自然の中にひっそりと息をひそめて隠れているところを見つける。それはまるで、誰だったかの言葉にあるように、海辺で美しい貝殻を見つけて喜ぶ子供に似ている。そんな夢だっただろう？

少年の目には、無限の可能性をひめた輝かしい自分の将来が見える。若者は失敗することなど恐れない。根拠のない自信。それはどのような批判にも揺るがない鉄壁の信念であり、得難い人生の宝なのだが、人はいつか必ずそれを失って大人になるのだろうか。君がそれを失ったのはいつのことだったのだろうか。なぜ、誰にも壊せなかった自信が、壊れてしまったのだろうか。

夢は、大きいほどいいという。大きな夢、偉大な目標をもって生きることができるとき、たしかに人生は輝いているだろう。大きな夢ほど遠い。遠いだけなら、地道に歩いていけばいつかは到達できると思って頑張れる。しかし一番大きな夢は、決して手の届くことのない夢だ。もちろん、何が実現可能で何が実現不可能かは、神様しか知らない。しかし少年の日に得た宝を失ってしまった君には、夢はあまりにも遠く実現不可能に見えるだろう。

夢にたどりつくまでには、いくつかの段階（中間目標）がある場合がある。人は、人生の究極の目標である夢があまりにも遠くて見えないとき、中間目標を目指して努力し、現実になんか達成することで、達成感と幸せを感じる。しかし人には夢以外の部分でもいろいろな信念があって、夢の達成のための中間目標が、自分の信念と矛盾するような行動を要求してくることはよくあることだ。この夢のためには、まずこれが必要で、そのためにはこれが、そしてこのためにはあれが・・・ こうやって毎日が雑用の繰り返しに追われる人生になる。そうしているうちに、もともとの夢を忘れてしまう人も多い。また、夢があまりにも大きく、自分で設定した中間目標に自信が持てないとき、なかなかそのために信念を曲げられるものではない。夢が大きすぎて、どのような中間目標を設定したらいいのかすら分からない時もある。

君が失ってしまった根拠のない自信を支えていたもの一つは、君の持って生まれた才能だっただろう。しかし君は気づいてしまった。たとえ君の才能が、1万に1人のものだったと

しても、君の尊敬する天才達にはほど遠いことに。地球には100億人の人間がいて、君以上の人間は10万人おり、その全員が夢を実現していたら、世の中は究極理論であふれかえってしまうことに。また君は知っている。才能がなければ決して理解できない美しさが、こ

の世にあることに。そのような美しさを追い求める事が、君の夢なのだから。

しかし、たとえ夢を実現できる可能性が  $10^{-23}$  より小さくとも、それに向かって努力しない人生とは一体何なんだろうか？毎日を幸せに楽しく暮らすことは、もちろん人生の唯一最大の目標なのだろうけど、それは幸せの定義の問題にほかならない。そして人は夢を追うとき、最大の幸せを感じるからこそ、夢を持つんじゃないだろうか？ どんなにその夢が大きくとも、わずかな可能性に賭けて努力する。どんなに不可能に見えることでも、確率は0ではない。それは神様しか知らないことなのだから。人はそれを希望とよぶ。希望を捨ててしまうのは簡単だ。ほとんど不可能に見えることにむけて努力するのは難しい。何か、夢に一歩でも近づいたと思えるような、小さくとも確実な手応えがなければ、努力しつづけられるものではない。君が、スキーやG P Lに打ち込むのは、その手応えを感じるからじゃないだろうか？しかし君は本当は知っている。スキーやG P Lでは決して得られない幸せを、君の夢が与えてくれることを。中間目標がみえないとき、手応えが感じられないとき、夢を追って努力するのはむなしいだろうし、不幸ですらある。でも、諦めないで。人生は有限であり、時間はとても貴重なもの。だから、無駄使いだけはしてはいけない。つらいときはしなくていい。でも、本当は一番好きなこと、君が君であるアイデンティティを支えてきたものを、捨てないでほしい。人からどう思われるか、といった社会的なためらい（やる気をなくさせるもの）にだけは、負けないで欲しい。そうやって、自分の時間を大切に、本物の幸せを求めながら過ごすとき、人は自分が本当は一番好きなことに帰ってくるものだと思うし、それが夢を追いかけて、希望を捨てない生き方なんだと思うよ。